

本市の梅毒に関する啓発等

1 SNS での啓発

平成 30 年 11 月に SNS (ツイッター) のアカウント「大阪市保健所 HIV・性感染症情報ナビ」を開設した。

これまでに、エイズや性感染症に関する情報を 46 回発信しており、フォロワー数は 179 人、エンゲージメント総数(※)は延べ 8,761 回にのぼっている。(いずれも令和元年 10 月 18 日現在)

※ユーザーがツイートに反応(閲覧等)した回数

2 大学と連携した啓発

平成 30 年 11 月 2 日(金)に、大阪市立大学の「银杏祭」で学祭の実行委員会と連携し、クイズ形式で梅毒に関する啓発をした。

大阪市立大学の学生が、司会(男性 1 人、女性 1 人)と回答者(男性 4 人)を務め、観客(大学生や地域の住民等)の前で回答者が梅毒に関するクイズに答えながら、保健所の保健師が梅毒の予防や検査について解説した。

3 キャンペーン検査の実施

平成 31 年 2 月 6 日、13 日、20 日、27 日の各水曜日に、府市共同の委託検査場である chotCAST において夜間即日検査(HIV・梅毒・B 型肝炎)を実施した。

梅毒患者の報告数の増加が新聞やネットニュース等で大きく報道されたことなどにより、chotCAST(チョットキャスト)の受検者が急増したため、キャンペーン検査を実施し、4 回で 175 人の受検者があった。(梅毒の陽性者は 8 人)

4 民間企業と連携した啓発

平成 31 年 2 月 6 日(水)に、FC 大阪(プロサッカークラブ)が運営するインターネットテレビのチャンネルで梅毒に関する啓発をした。

FC 大阪のチャンネル「大阪府インフォメーション 大阪市スペシャル」に保健所の保健師が生放送で出演し、司会者とかけ合いをしながら、梅毒患者が増加していること、若い女性に患者が増えており、先天梅毒の報告もあること、大阪市では無料の検査を実施していることなどを伝えた。(視聴回数約 27 万回)

5 医療機関等における啓発(依頼)

令和元年 5 月 20 日に、市内の産科・産婦人科の各医療機関等に、梅毒による母子感染の注意喚起のリーフレットを送付し、施設への掲示等を依頼した。

医療機関以外でも、各区保健福祉センター、図書館にも送付し、掲示いただくとともに、妊婦やその配偶者が区民センター等に集まるイベントの場で、リーフレットの配架をしている。